

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
2【かかわる】	⑨【仲間や地域の人々とのつながり】 幼児や高齢の人々・障がいのある人々等と一緒に生活している地域社会において、互いに支え合う仲間の大切さや地域の方々のありがたさを実感する。	道徳の時間 特別活動

**【題材】かかわり合う力を育む指導の実践**

**【対象】全校児童（414名）**

**【実践の概要・詳細】**

**1 題材設定の理由**

本校では、三つの教育的価値の中で「かかわる」ということを取組の柱に位置付けた。なぜなら人や地域とのかかわり合いを深めることが、本校児童にとって、人の絆の大切さを実感することや地域づくりへの貢献につながると考えたからである。具体的なテーマを「かかわり合う力の育成」とし、日々の学習においては、次の四つの重点を設け取り組んだ。

- |   |
|---|
| 1 「聞き方、話し方」等、基本的な学習態度の育成<br>2 思いや考えを伝え合う表現力の育成<br>3 ペアや小グループ等、コミュニケーションを活発にするグループ形態の工夫<br>4 何でも話し合える人間関係づくり |
|---|

**2 東日本大震災津波に関する話を聞く会の開催**

7月9日（火）、今年度釜石市立甲子小から転任いただいた先生から、東日本大震災津波当時の釜石市での生活について全校で話を聞く会を開催した。震災当時、勤務していた甲子小での様子や避難してきた方々の体育館での生活、給食の様子等について、イラストを使いながら分かりやすく話をしていた。3年生の男子児童は「被災地への募金等、自分たちができることをがんばりたい」と意欲を高めていた。



震災当時の話をする五代儀先生

**3 道徳の時間の実践**

(1) 復興教育に関する各学年の主な実践

右図参照

(2) 6年生の実践

尊敬・感謝の価値に迫るため、資料「土石流の中で救われた命」と震災時の避難の様子を綴った新聞記者の証言を使って授業を行った。児童は、登場人物の気持ちに共感しながら、真剣に話し合うとともに、大津波の恐ろしさに声も出ない様子だった。女子児童は、授業後「私たちが、今、何をすべきかを考えて行動できるようにしたい」と災害時の行動等について決意を新たにしていた。



学年	主たる教材名・道徳的価値	復興教育の視点等
1年	はしのうえのおおかみ 【思いやり・親切】	大震災後、避難所で炊き出し等を行った人についての説話
2年	ノートのひこうき 【節度ある生活態度】	物の大切さについての説話
3年	ぼくたち、手伝います！ 【思いやり・親切】	震災に関する児童作文の朗読
4年	ポロといっしょ 【思いやり・親切】	大震災について扱った読み物資料の活用
5年	ありがとう上手に 【尊敬・感謝】	大震災時、人命救助に尽力した警察官への感謝の詩の朗読
6年	土石流の中で救われた命 【尊敬・感謝】	震災時に避難した新聞記者の証言の朗読

#### 4 小佐野小とのラグビー交流

8月31日(土)、本校ラグビーチーム「レッドカルロス」と、釜石市立小佐野小ラグビーチーム「バーバリアンズ」が釜石市競技場で交流活動を行った。昨年は小佐野小が紫波町に遠征しており、今年はこちらに合わせる形で赤石小が釜石市に遠征することになった。赤石小からは4年生以上の児童14名が参加し、小佐野小からは同じく4年生以上の児童25名が参加した。両校の児童と一緒に練習した後、5人ずつのチームに分かれて練習試合を重ねた。両校の保護者らは、芝生のスタンドから盛んな声援を送っていた。参加した子どもたちは、次のような感想を述べていた。

- 4年男子「小佐野小の人たちといっばい試合ができてうれしかったです。小佐野小には、おもしろい人がいて、いっしょのチームで試合をした時に、ぼくを笑わせてくれました。また、いっしょに試合がしたいです。」
- 5年女子「小佐野小との交流試合では、作戦通りにはできなかったけど、いっばい相手をぬくことができてうれしかったです。小佐野とのミックスのチームで試合をした時は、パスをいっばい出してきてうれしかったです。」
- 6年女子「小佐野小と交流会がありました。始めは、ドキドキしていましたが、小佐野の人といっしょに練習しているうちに笑顔でプレーができました。被災地の人といっしょにラグビーができて、とても良い経験になりました。」
- 6年男子「今年も全国大会出場が目標です。今回の練習試合ではナイストライがたくさんありました。」



小佐野小との交流試合

#### 5 アルミ缶回収による福祉ボランティア体験

全校児童で一つの活動を行い、結果として被災地の役に立つ体験活動は何かを考えた。取り組んだのは、アルミ缶を各家庭や地域の方々から提供していただき、それをリサイクル業者に買い取ってもらい、収益金を被災地の学校に贈る活動である。環境整備委員会の活動の一つとして10月下旬から取組を進めている。



#### 6 保護者・地域の方からの感想

##### ○地域の方から

復興教育支援事業推進校として指定され、誇りに感じます。今年度の活動をもとに今後についても児童が主体性をもって行動し“相手を思いやる”こころの育成ができるよう、私たち地域住民も学校とともに支援してまいります。

##### ○保護者の方から

子どもたちが、復興教育の取り組みを通して、震災時の沿岸の子どもたちの様子などを知る機会があり、改めて物の大切さや人への思いやり、尊敬・感謝の心等について、一人一人が見つめ直す機会になったのではないかと思います。



#### 7 まとめ

未曾有の被害を受けた東日本大震災津波から3年目を迎えた。被災地の復興は、まだまだ途上だが、報道等で被災地の子どもたちの輝く笑顔を目にする度、今よりもっと住みよい社会や教育をつくりあげていかなければという思いを新たにしている。

「いわての復興教育」として、子どもたちが「震災津波の経験を後世へ語り継ぎ、自らのあり方を考え、未来志向の社会をつくること」ができるよう、これからも本校の特色に応じた取組を進めていきたい。